



一 糸系乃乃乃乃乃乃

松は作し
秀秀

観音經の撰抄卷下目録

- 第一 くらうとすくし音下
- 第二 くらうとすくし音下
- 第三 くらうとすくし音下
- 第四 くらうとすくし音下
- 第五 くらうとすくし音下
- 第六 くらうとすくし音下
- 第七 くらうとすくし音下
- 第八 くらうとすくし音下
- 第九 くらうとすくし音下
- 第十 くらうとすくし音下
- 第十一 くらうとすくし音下
- 第十二 くらうとすくし音下
- 第十三 くらうとすくし音下
- 第十四 くらうとすくし音下
- 第十五 くらうとすくし音下
- 第十六 くらうとすくし音下
- 第十七 くらうとすくし音下
- 第十八 くらうとすくし音下
- 第十九 くらうとすくし音下
- 第二十 くらうとすくし音下
- 第二十一 くらうとすくし音下
- 第二十二 くらうとすくし音下
- 第二十三 くらうとすくし音下
- 第二十四 くらうとすくし音下
- 第二十五 くらうとすくし音下
- 第二十六 くらうとすくし音下
- 第二十七 くらうとすくし音下
- 第二十八 くらうとすくし音下
- 第二十九 くらうとすくし音下
- 第三十 くらうとすくし音下
- 第三十一 くらうとすくし音下
- 第三十二 くらうとすくし音下
- 第三十三 くらうとすくし音下
- 第三十四 くらうとすくし音下
- 第三十五 くらうとすくし音下
- 第三十六 くらうとすくし音下
- 第三十七 くらうとすくし音下
- 第三十八 くらうとすくし音下
- 第三十九 くらうとすくし音下
- 第四十 くらうとすくし音下
- 第四十一 くらうとすくし音下
- 第四十二 くらうとすくし音下
- 第四十三 くらうとすくし音下
- 第四十四 くらうとすくし音下
- 第四十五 くらうとすくし音下
- 第四十六 くらうとすくし音下
- 第四十七 くらうとすくし音下
- 第四十八 くらうとすくし音下
- 第四十九 くらうとすくし音下
- 第五十 くらうとすくし音下
- 第五十一 くらうとすくし音下
- 第五十二 くらうとすくし音下
- 第五十三 くらうとすくし音下
- 第五十四 くらうとすくし音下
- 第五十五 くらうとすくし音下
- 第五十六 くらうとすくし音下
- 第五十七 くらうとすくし音下
- 第五十八 くらうとすくし音下
- 第五十九 くらうとすくし音下
- 第六十 くらうとすくし音下
- 第六十一 くらうとすくし音下
- 第六十二 くらうとすくし音下
- 第六十三 くらうとすくし音下
- 第六十四 くらうとすくし音下
- 第六十五 くらうとすくし音下
- 第六十六 くらうとすくし音下
- 第六十七 くらうとすくし音下
- 第六十八 くらうとすくし音下
- 第六十九 くらうとすくし音下
- 第七十 くらうとすくし音下
- 第七十一 くらうとすくし音下
- 第七十二 くらうとすくし音下
- 第七十三 くらうとすくし音下
- 第七十四 くらうとすくし音下
- 第七十五 くらうとすくし音下
- 第七十六 くらうとすくし音下
- 第七十七 くらうとすくし音下
- 第七十八 くらうとすくし音下
- 第七十九 くらうとすくし音下
- 第八十 くらうとすくし音下
- 第八十一 くらうとすくし音下
- 第八十二 くらうとすくし音下
- 第八十三 くらうとすくし音下
- 第八十四 くらうとすくし音下
- 第八十五 くらうとすくし音下
- 第八十六 くらうとすくし音下
- 第八十七 くらうとすくし音下
- 第八十八 くらうとすくし音下
- 第八十九 くらうとすくし音下
- 第九十 くらうとすくし音下
- 第九十一 くらうとすくし音下
- 第九十二 くらうとすくし音下
- 第九十三 くらうとすくし音下
- 第九十四 くらうとすくし音下
- 第九十五 くらうとすくし音下
- 第九十六 くらうとすくし音下
- 第九十七 くらうとすくし音下
- 第九十八 くらうとすくし音下
- 第九十九 くらうとすくし音下
- 第一百 くらうとすくし音下

観音經下



十三 くらあんなり下
 十四 すいさんの下
 十五 相座の下
 十六 付 しのめあんなり下
 陸あしとせあんなり下
 付 こんがうあんなり下
 十七 あんぞくあんなり下
 十八 まうりあんなり下
 十九 抄澤のあんなり下
 二十 しのめあんなり下
 廿一 鬼あんなり下
 廿二 けいごとのあんなり下
 廿三 ぞくしあんなり下
 又廿三 いらちのあんなり下

廿四 むつとやうれあんなり下
 廿五 二千三あんなり下
 廿六 むらくろあんなり下
 廿七 舟あんなり下
 廿八 あつたあんなり下
 廿九 けんあんなり下
 三十 三ごりあんなり下
 卅一 柿屋あんなり下
 卅二 又あんなり下
 卅三 別あんなり下
 卅四 安あんなり下
 卅五 ぐいあんなり下
 卅六 りあんなり下
 卅七

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

下巻目録終

一
信
下

三
不
下

是故汝等應當一心供養觀世音菩薩是觀
 世音菩薩摩訶薩於怖畏急難之中能施無
 畏是故此娑婆世界皆号之為施無畏者

無盡意菩薩白佛言世尊我今當供養觀世
 音菩薩摩訶薩於怖畏急難之中能施無
 畏是故此娑婆世界皆号之為施無畏者

見
下

三

あひとくくわのめとんもん一かしのしと
くくくーあふれとあうらうらうらとてあん
はふひのめんうんて一ふいぬらうらんもん
くろろーあうらうらうらとてあうらうらとて
もんもんともうらうらとてあうらうらとて
無盡意觀世音菩薩有如是自在神力遊於

娑婆世界

今時無盡意菩薩以得問曰

世尊妙相具

我今重問彼

佛于何因緣

名為觀世音

び文のくハじえいけろろのめめとてあんもん
のりんもんともひもんともてげんともひもん
具足妙相尊 偈答無盡意 汝聽觀音行 善應諸方所
弘誓深如海 歷劫不思議 侍多千億佛 發大清淨願
我為汝畧說 聞名及見身 心念不空過 能滅諸有苦
果足妙相尊 偈答無盡意 心念不空過 能滅諸有苦
くもあうらうらとてあうらうらとてあうらうらとて
くもあうらうらとてあうらうらとてあうらうらとて
くもあうらうらとてあうらうらとてあうらうらとて
くもあうらうらとてあうらうらとてあうらうらとて
くもあうらうらとてあうらうらとてあうらうらとて

御座りし... 弘誓... 願知... 念彼... 火坑... 龍魚... 波浪...
御座りし... 弘誓... 願知... 念彼... 火坑... 龍魚... 波浪...
御座りし... 弘誓... 願知... 念彼... 火坑... 龍魚... 波浪...
御座りし... 弘誓... 願知... 念彼... 火坑... 龍魚... 波浪...

假使與害意推落大火坑 念彼觀音力 火坑變成池
假使與害意推落大火坑 念彼觀音力 火坑變成池
假使與害意推落大火坑 念彼觀音力 火坑變成池

或漂流巨海 龍魚諸鬼難 念彼觀音力 波浪不能没
或漂流巨海 龍魚諸鬼難 念彼觀音力 波浪不能没
或漂流巨海 龍魚諸鬼難 念彼觀音力 波浪不能没

或在須弥峯 爲人所推墮 念彼觀音力 如日虛空住
或在須弥峯 爲人所推墮 念彼觀音力 如日虛空住
或在須弥峯 爲人所推墮 念彼觀音力 如日虛空住

或被惡人逐 墮落金剛山 念彼觀音力 不能損一毛

念金剛山念金剛山念彼觀音力念彼觀音力不能損一毛不能損一毛

念此世界念此世界念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力

念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力

或值怨賊統 各執刀加害 念彼觀音力 咸即起慈心

念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力

念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力

或遭王難苦 臨刑欲壽終 念彼觀音力 刀尋段段壞

念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力

或囚禁枷鎖 手足被杻械 念彼觀音力 釋然得解脫

念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力

咒阻諸毒藥 所欲害身者 念彼觀音力 還著於本人

念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力

念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力

念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力

或遇惡羅刹 毒龍諸鬼等 念彼觀音力 時悉不敢害

念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力念彼觀音力

尺...

若惡獸圍繞 利牙爪可怖 念彼觀音力 疾走無邊方

いんハ悪獸乃めんそつも海ありありのけい
のうのいんそつとんめんをせんせが
とあひとあひいんそつとんめん

蚯蚓及蟻蝮 氣毒烟火燃 念彼觀音力 尋聲自迴去

いんハ蚯蚓及蟻蝮
けいしんくわくかきりくわく
けんけんハいんそつとんめん

雲雷鼓掣電 降雹澍大雨 念彼觀音力 應時得消散

いんハいんハ雲雷鼓掣電
けいしんくわくかきりくわく
けんけんハいんそつとんめん

衆生被困厄 無量苦遍身 觀音妙智力 能救世間苦

いんハ衆生被困厄
けんけんハ無量苦遍身
けんけんハ觀音妙智力
けんけんハ能救世間苦

具足神通力 廣修智方便 十方諸國土 無刹不現身

いんハ具足神通力
けんけんハ廣修智方便
けんけんハ十方諸國土
けんけんハ無刹不現身

見者お下

種種諸惡趣 地獄鬼畜生 生老病死苦 以漸悉令滅

此の如く修むれば、
 種種諸悪趣の地獄、
 鬼畜生、生老病死、
 悉く滅する。

真観清浄観 廣大智慧觀 悲觀及慈觀 常願常瞻仰

此の如く修むれば、
 真観清浄観、
 廣大智慧觀、
 悲觀及慈觀、
 常願常瞻仰、
 一切の苦を滅し、
 涅槃の境に到る。

此の如く修むれば、
 一切の苦を滅し、
 涅槃の境に到る。

此の如く修むれば、
 一切の苦を滅し、
 涅槃の境に到る。

尺の下の下

げんのうれりのほまきしめあつてこれのうん
れきと頌すふあり

評訟經官處 怖畏軍陣中 念彼觀音力 衆怨悉退散

▲修証院中あまふとらぶとやうあまふんふかてくド

こころのまうれんじけりあふんあんとれんすれ

はりのりの▲怖畏軍陣中とらふんあふりあふ

とれとあふんあんとれんあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

妙音觀世音 梵音海潮音 勝彼世間音 是故頌常念

いんののうれりのほまきしめあつてこれのうん

れきと頌すふあり

▲修証院中あまふとらぶとやうあまふんふかてくド

こころのまうれんじけりあふんあんとれんすれ

はりのりの▲怖畏軍陣中とらふんあふりあふ

とれとあふんあんとれんあふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

いんののうれりのほまきしめあつてこれのうん

れきと頌すふあり

念念勿生疑 觀世音淨聖 於苦惱死厄 能為作依怙

いんののうれりのほまきしめあつてこれのうん
れきと頌すふあり

見

第九
下

んドもどやうれお望とあきらめてよけぞうの
くドもどやうれお望とあきらめてよけぞうの
りともむまねれどやうれお望とあきらめてよけぞうの
色けんりしこれおとさきひとてしるあき人ふん
トやうりしとてしるあき人ふん
あき人のあきんりしとてしるあき人ふん
るるりしとてしるあき人ふん
乃利少くあり

今時持地菩薩即從座起前白佛言世尊若
有衆生聞是觀世音菩薩品自在之業普門
示現神通力者當知是人功德不少

持地菩薩

下

下

いんれえはあの人ん一かんとさくぞくと
あつるもりあどがうのあんれとくあくと
移款一あつるもりあどがうのあんれとくあくと
がさつるもりあどがうのあんれとくあくと

佛說是普門品時衆中八万四千衆生皆發
無等等阿耨多羅三藐三菩提心

いんれえはあの人ん一かんとさくぞくと
あつるもりあどがうのあんれとくあくと
移款一あつるもりあどがうのあんれとくあくと
がさつるもりあどがうのあんれとくあくと
いんれえはあの人ん一かんとさくぞくと
あつるもりあどがうのあんれとくあくと
移款一あつるもりあどがうのあんれとくあくと
がさつるもりあどがうのあんれとくあくと
いんれえはあの人ん一かんとさくぞくと
あつるもりあどがうのあんれとくあくと
移款一あつるもりあどがうのあんれとくあくと
がさつるもりあどがうのあんれとくあくと

見

んとおういふところだあれんさういふてくきやくせん
一ごいののりたぬハ八方定まらんさういふんありは
か八万定まらんかんのうとさういふらんのかれん
▲聖教のちのちかつけられぬれば地なるひ
ふよきおしるなりしめさういふかたけともし
しるさういふさういふかたけのすあにさういふ
はしるさういふさういふ▲阿耨多羅三藐三菩提の善
徳とるさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ

つるものさういふさういふさういふさういふ
けかたけのさういふさういふさういふさういふ
とらさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふさういふ

永世功徳

普及於一切

象背亦承生

皆共成伴友

大元正統元年

大元正統元年三月... 大元正統元年三月... 大元正統元年三月...

大元正統元年三月... 大元正統元年三月... 大元正統元年三月...

大元正統元年三月

丁子... 三帝兵衛殿刊之

大元正統元年三月

